

食料経済学特論Ⅰ (2単位)

担当者氏名 萩沼圭輔

◆学習・教育目標（到達目標を記載）

農業経済学の教科書を用いて、農業・農村経済および農業政策に関する基礎理論を学び、アジア地域の農業・食料問題に関する学術研究を行う上での、基本的考え方をマスターすることを目標とする。

授業は農業経済学に関するテキストを用い、テーマごとに内容を検討し、その上で受講者がそのポイントについてプレゼンテーションを行う形式で進める。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

アジア

食料需給

農業と市場

農業保護

農業の近代化

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	ガイダンス	講義のねらいに関する解説	本講義のねらいは、農業経済学の理論を通じて食料・農業問題に関する基本的理論を身につけることにある。
2	経済学と農業の世界	産業としての農業の特徴に関する学習	受講者には教科書の予習を求め、講義を通じて、「分かったつもり」で済ませるのではなく事前に質問を準備すること。
3	経済発展と農業	経済成長と食料需要の変化に関する学習	(毎回の準備・復習時間は、それぞれ1~2時間程度を目安とする)
4	食料の需要と供給	農産物市場の特性と政府介入に関する学習	
5	農業生産と土地	農業技術と規模の経済に関する学習	
6	農業の経営組織	家族農業経営の特性に関する学習	
7	農産物の市場組織	農産物と農地市場の特徴に関する学習	
8	農産物貿易と農業保護政策	国際市場の特徴と農業保護政策に関する学習	
9	世界の人口と食料	人口増加と地球規模の食料問題に関する学習	
10	食生活の成熟とフード・システム	食料消費の高度化と食品産業に関する学習	
11	農業の近代化	農業の近代化とその影響に関する学習	
12	資源・環境と農業	資源問題と農業の持続可能性に関する学習	
13	日本の農業と食料	アジアの先進国日本農業の特徴に関する学習	
14	農業政策と農業経済学	農業政策の意味に関する学習	
15	講義のまとめ	学習内容の応用について	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

農業経済学 第3版/荏開津典生/岩波書店/2008年

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

授業の中で紹介する。

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

テキストの予習レポート（50%）、授業中の発表（50%）

◆オフィスアワー

月曜日の4限目終了後。その他の時間は事前にアポイントをとること。

◆その他受講上の注意事項

授業中に指示をする。